

令和3年度

看護学研究科（博士前期課程）

問題 出題の意図・解答のポイント

令和3年1月23日

高知県立大学大学院

小論文

問 自己の実践領域におけるパートナーシップの意義と課題について、あなたの考えを述べてください。

(100点)

<出題の意図>

看護者は信頼関係を基盤としながらケアすることが重要である。この設問により、実践におけるパートナーシップに関する専門的知識、看護実践に対する洞察力、論理性と抽象的思考力をみる。

<解答のポイント>

実践におけるパートナーシップの意義として、対象の意思決定を尊重することができる、対象が抱える課題を協働して解決することができるなど、課題としてパートナーシップの確立に時間がかかる、信頼関係を築いていないと効果的に機能しないなどについて、自分の考えを論理的に述べていること。

英 語 CNS コース・研究コース

次の英文を読み、下記の質問に日本語で答えてください。

出典：Bernadette Carter: Chapter 4 Reflecting in groups, Chris Bulman, Sue Schutz eds. :
Reflective Practice in Nursing 5th edition, p.93, Wiley-Blackwell, 2013 より抜粋

<出題の意図>

大学院博士前期課程において必要となる基礎的な英文読解力と、設問の内容を的確に把握し解答する力をみる。

問1 reflective groupについて、筆者はどのように述べているか、要約してください。

(50点)

<解答のポイント>

以下の内容を含んでいること。

- ・実践の状況、専門分野、役割、経験や専門知識のレベルに関係なく、看護師が日常の実践を批判的に検討するのに役立つ大きな可能性を秘めている
- ・グループで一緒に振り返りを行うことは、一人で自分の実践を振り返ることで得られない、学習の新しい機会をもたらす
- ・グループでの振り返りは、メンバーとそのケアと仕事に大きな利益をもたらすことができるが、簡単にできる解決策ではない
- ・生産性と効率、リスク削減、および組織に対するその他のメリットが求められていることから、参加者の能力開発はリフレクティブグループワークの主な機能の1つである
- ・ほとんど見過ごされているメリットはウェルビーイングの潜在的な向上であり、それは、効果的でリフレクティブなグループへの参加により得られるなど

問2 グループで行うリフレクションを効果的なものにするために、どのようなことが必要であるか、英文の内容も参考にして、あなたの考えを述べてください。

(50点)

<解答のポイント>

提示された英文をふまえ、自らの考えを述べていること。

英語実践リーダーコース

次の英文を読み、下記の質問に日本語で答えてください。

出典: Elaine Simpson, Mary Courtney: Critical thinking in nursing education: Literature review,
International Journal of Nursing Practice, 8, p. 89, 2002 より抜粋 一部改変

<出題の意図>

大学院博士前期課程において必要となる基礎的な英文読解力と、設問の内容を的確に把握し解答する力をみる。

問1 下線部を日本語に訳してください。

(20点)

<解答のポイント>

文章を正しく捉えて、日本語に訳していること。

問2 ヘルスケアの場に生じている複雑な変化に効果的に対処する上で、必要な看護師の能力について、英文の内容も参考にしてあなたの考えを述べてください。

(30点)

<解答のポイント>

提示された英文もふまえ、自らの考えを述べていること。

専門科目 クリティカルケア看護学

問1 重症患者の認知機能障害を防ぐ看護援助を2つとりあげて、根拠とともに説明してください。

(100点)

<出題の意図>

重症患者の長期予後を改善する上で、認知機能障害を防ぐことは重要な課題である。この設問により、重症患者の認知機能障害を防ぐ看護援助に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

重症患者の認知機能障害を防ぐ看護援助として、苦痛緩和、低酸素血症の予防、せん妄の予防などから2つとりあげて、根拠とともに説明していること。

問2 事例を読んで、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

Aさん(35歳、女性)は、気管支喘息による呼吸困難のために昨日入院した。入院時の血液検査では、WBC 7,600/ μ L、CRP 1.6mg/dL、動脈血ガス分析では、pH 7.40、PaO₂ 58mmHg、PaCO₂ 36mmHg、HCO₃⁻ 24.0mEq/L、SaO₂ 89.2%であった。入院後、経鼻カニューラによる酸素吸入、 β_2 刺激薬の吸入、抗コリン薬の吸入、テオフィリンの静脈内持続投与、ステロイド薬の投与が行われたが、呼吸困難はあまり改善せず持続していた。「苦しい。眠らせて」と20時にナースコールがあり、訪室すると、喘鳴の増強、呼気の延長があり、じっとりと汗をかき、チアノーゼ、末梢冷感が認められた。声をかけると何とかうなずくが、目は閉じたままで、発語はない。血圧170/94mmHg、呼吸数30回/分、体温37.1°C、SpO₂ 85%であった。

1) Aさんの状態をアセスメントしてください。

2) 1)をふまえて、Aさんへの看護援助について、具体的に述べてください。

<出題の意図>

喘息重積発作を起こした患者の状態を評価し、早期に対応することは、重症化を防ぐ上で重要な看護援助である。この設問により、喘息重積発作を起こした患者への看護援助に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問2-1) Aさんのアセスメントとして、喘息重積発作を起こし、呼吸状態の悪化から意識障害が出現していること、苦痛緩和のニードがあることなどについて述べていること。

問2-2) 上記1)をふまえて、Aさんへの看護援助について、全身状態の把握、安楽に呼吸できる体位調整、薬剤の適切な管理、排痰援助、不安軽減などの視点から具体的に述べていること。

専門科目 小児看護学

問1 慢性疾患をもつ子どものボディイメージについて、以下の1)、2)に答えてください。

(130点)

- 1) 慢性疾患をもつ子どものボディイメージが変化する体験について、概念を1つとりあげて説明してください。
- 2) 1)をふまえて、ボディイメージの変化を体験している慢性疾患をもつ子どもへの看護援助として、重要であると考えるものを2つとりあげて、根拠とともに述べてください。

<出題の意図>

慢性疾患をもつ子どものボディイメージが変化する体験について理解し、ボディイメージを形成していくことへの看護援助を実践することは、小児看護の重要な課題である。この設問により、ボディイメージの変化を体験している慢性疾患をもつ子どもへの看護に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) 慢性疾患をもつ子どものボディイメージが変化する体験について、概念(身体機能の喪失、自己概念、葛藤など)を用いて説明していること。
- 問1-2) 1)をふまえて、慢性疾患をもつ子どもがボディイメージの変化に伴う危機を乗り越えていくことを支える、自分で症状をコントロールできるという感覚を獲得することを支える、自分らしい生活を組み立てていくことを支えるなどについて、根拠とともに述べていること。

問2 次の事例を読んで、あなたが重要であると考え家族への看護援助を1つとりあげて、根拠とともに述べてください。

(70点)

Aくん(6歳、男児)は、公園で弟(4歳)と母親と一緒に遊んでいました。弟がAくんと遊具を取り合って泣き出したため、母親はAくんを叱りました。Aくんは、泣きながら公園の外に飛び出し、交通事故にあい、救急搬送されました。現在、集中治療室で治療を受けています。母方の祖母が病院に駆けつけ、「Aくん、どうしたの？」

何があったの？ 一緒にいなかったの？」と母親に尋ねると、母親は「私があの時、きつくAを叱りつけて、弟に付きっきりになったのがいけなかった」と泣き崩れています。弟は、祖母に抱きついて泣いています。集中治療室から出てきた看護師は、「処置が今終わりました。お母さん、とにかくAくんのところに行きましょう」と声をかけて面会を促しています。

<出題の意図>

救急搬送され、集中治療室で治療を受ける子どもの家族の体験を理解し、看護を実践することは重要である。この設問により、救急搬送され、集中治療室で治療を受ける子どもの家族の看護に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

家族への看護援助として、自責の念が強い母親を受けとめる、関わりを継続しながら母親・弟・祖母に安心感を提供するなどについて、根拠とともに述べていること。

専門科目 家族看護学

問1 次の事例を読み、以下の1)、2)に答えてください。

(140点)

Aさん(20歳、男性)は、脳性麻痺で四肢の筋緊張、軽度の精神遅滞と構音障害があり、日常生活全般に一部介助が必要である。1年前から、週2回就労継続支援(B型)の事業所に通い始めたが、当初なかなか他の通所者になじめず、心配した母親(60歳)が終了まで作業場の隅で待っていることもあった。Aさんは2週間前に肺炎で入院となり、当初は呼吸困難が見られ、発熱と経口摂取困難により体力が低下していたが、現在は症状が改善し、酸素吸入や点滴も終了となった。母親は入院時から連日病院に通い、朝食前から就寝頃まで献身的にAさんの身の回りの世話をしており、最近では疲れた様子で、ベッドサイドで寝ている姿が見られるようになった。そこで、看護師が面会を毎日来なくても大丈夫なので、少し家で休んではどうかと声をかけたところ、「大丈夫です。Aは弱い子なんです。言いたいことも自分ではうまく伝えられないし、私が側にいてやらないとだめなんです。」という答えが返ってきた。両親はAさんが5歳の時に離婚し、以来母親と二人暮らしである。

- 1) この家族の状況について、1つの概念または理論を用いて説明してください。
- 2) 1)をふまえて、この家族に対してどのような看護援助を行うか、具体的に述べてください。

<出題の意図>

障害のある成人した子どものいる家族への看護援助において、これまでの家族内の関係性をとらえた上で、家族が子どもの状態に合わせたかかわりができるように支援することが重要である。この設問により、障がいのある成人した子どものいる家族への看護に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) 家族の状況について、概念または理論(家族関係、セルフケアなど)を用いて説明していること。
- 問1-2) 1)をふまえて、Aさんを大切に思う母親の気持ちを尊重しつつ、Aさんに合わせたかかわり方ができるよう教育的にかかわる、Aさんのセルフケア能力に合わせた介護について母親とともに考える、母親自身の生活にも目を向けられるように促すなどの看護援助について、具体的に述べていること。

問2 在宅での看取りを視野に入れて退院準備を始めた終末期がん患者の家族に対する看護援助の目標を1つあげ、具体的な看護援助について述べてください。

(60点)

<出題の意図>

在宅での看取りを視野に入れて退院準備を始めた終末期がん患者の家族が、安心して退院を迎えられるよう支援することは重要である。この設問により、在宅での看取りを視野に入れて退院準備を始めた終末期がん患者の家族への看護援助に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

看護援助の目標として、患者・家族の退院後の生活にかかわる目標、在宅での看取りについての意向にかかわる目標などから1つあげ、それらに対する看護援助を具体的に述べていること。

専門科目 在宅看護学

問1 自宅に退院する療養者・家族への意思決定支援について、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

- 1) 自宅への退院に関して、療養者と家族で意思が異なる場合があります。意思が異なる背景について、1つとりあげて説明してください。
- 2) 1) でとりあげた背景をふまえ、あなたは療養者と家族にどのような意思決定支援を行うのか、具体的に述べてください。

<出題の意図>

退院に関して、療養者と家族の意思決定を支援することは看護者として重要な役割である。この設問により、自宅への退院に関する意思決定支援についての専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) 自宅への退院に関して療養者と家族の意思が異なる背景として、療養者と家族の関係性、療養者と家族の現状の捉えの違いなどを1つとりあげて、説明していること。
- 問1-2) 1) でとりあげた背景をふまえ、療養者と家族への意思決定支援について具体的に述べていること。

問2 次の事例を読んで、訪問看護師としてAさんへの看護援助について、根拠とともに具体的に述べてください。

(100点)

Aさん(60歳)は夫(62歳、胃がん)を、自宅で介護している。夫は、最近痛みを訴えることが多くなり、食事量も減少している。Aさんは、往診医より「死が近づいています。どこで看取るのか、決める時期ですね。」と説明を受けた。Aさんは、訪問看護師に「夫の死を覚悟していたとはいえ、こんなに早く死の時期が来るなんて…。私たち夫婦は、まじめに一生懸命働いてきて、これから2人で旅行もできるはずだったのに…やはり、信じられない。最近痛みを訴えることも多く、死

を迎える夫をそばで見るのは、つらい…。どうしていいのかわからない…。』と涙ながらに話す。

<出題の意図>

看取りの時期において、療養者、介護者が安心して死を迎えることができるよう支援することは訪問看護師の重要な役割である。この設問により、看取りの時期にある介護者への看護援助に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

Aさんへの看護援助として、予期悲嘆の表出、療養場所の選択、夫の疼痛コントロールなどについて、根拠とともに具体的に述べていること。

専門科目 災害・国際看護学

問1 新型コロナウイルス感染症の拡大により、自然災害による避難所運営において、感染症の対策が重要な課題となりました。看護の視点から必要な対策を優先順位を定めて3つあげ、それぞれの内容について述べてください。

(100点)

<出題の意図>

避難所における感染症対策は、災害対応の重要な課題である。この設問により、避難所の感染症対策に関する理解度、災害看護に関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

避難所における感染症対策として、避難所の小規模化・分散化、消毒、世帯単位での仕切りの設置、ゾーニングなどの対策を優先順位とともに述べていること。

問2 地球温暖化により、自然災害の危険性が増しているという指摘があります。地球温暖化を防止するために、パリ協定では、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることができるように世界中の国がその削減目標を決め、2020年以降の地球温暖化対策を定めています。しかし、協定から離脱する国もあり、国際的協定の足並みを揃えることの難しさが現れています。パリ協定を例として、看護の視点で国際協力活動の推進に影響する課題を2つあげ、それらの対策を具体的に述べてください。

(100点)

<出題の意図>

災害にも関わる国際的なパリ協定を例に、国際協力に関して議論することは、災害・国際活動の視点から重要な課題である。この設問により、国際協力活動に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

パリ協定を例に、看護の視点で国際協力活動の推進に影響する課題として、科学技術力の違い、経済力の違い、道徳観の違いなどをあげ、それらの対策について、具体的に述べていること。